

衛生学の研究への誘い（7）

－子どもの環境と健康の関係に関する研究にとりくむ－

（7－1）未来の子どもたちによりよい環境をバトンタッチする

私たちは2011年から、子どもの成長を胎児期から追跡する「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」を行っています（名市大の取り組みは[こちら](#)を、環境省としての全国での取り組みは[こちら](#)をご覧ください）。この調査は全国15地域で親子10万組を対象に行われ、子どもの成長や健康に影響をあたえる「環境要因」をさがし、解明していくことを目的としています。現在は私が全国の研究代表者を務めています。調査の結果にもとづき、影響をあたえる化学物質の曝露や生活環境が明らかになった時には、原因となる物質の使用を規制するなど有効な対策を講じることで、子どもが健やかに成長できる環境、安心して子育てができる環境の実現をめざしていきます。

ひとりの人の健康状態は、さまざまな要因が複合的に組み合わさって決まります。化学物質以外の個人の要因だけを眺めてみても、生活習慣、栄養、ストレス、働き方、教育、遺伝など、様々なものがあります。エコチル調査を進めることにより、化学物質にとどまらずこれらの要因を、健康を構成する身体のさまざまな仕組みとともに深く理解し、社会に還元できる新しい発見をしていくこと

になります。

エコチル調査に参加されている方々は、たいへんお忙しい中で時間をやりくりして質問票に記入してくださったり、また、対面調査に出向いてくださったりしています。そして、こうした取り組みを、全国各地域の関係者の方々が暖かく見守って下さっています。皆、未来の子どもたちによりよい環境をバトンタッチすることに役立ちたい、という善意から協力してくださっています。私たちは調査を進めながら、参加者の皆さんや地域にどう成果をお返しし、将来どのように役立てていけるのかを常に考えています。このことは調査を進める者として大切であると同時に、楽しいことでもあります。責任感を胸に、皆で、集めさせていただいたデータを大切に扱っています。

調査が始まって10年が過ぎ、[研究成果](#)が少しずつ増えていくとともにさまざまなデータが集積してきました。最初の頃に調査スタッフとなった方々は、調査の基盤をつくることに持てる力のほとんどを捧げましたが、現在では、調査を継続しつつ、参加者の皆様からいただいたデータをまとめることにも大きな力を注ぐ段階に入っています。社会の皆様には、これからどのような成果が出てくるか、関心を持っていただけますと幸いです。

(7-2) まとめ -社会医学、特に衛生学の研究のやりがい-

社会医学の視点は、病気や健康を社会全体の中でながめ、それらを規定する要因が何かを明らかにして社会や人々の集団に対して対策を働きかけ、病気の予防と健康増進をはかる点にその特色があります。私たちの仕事は病院や大学の中だけでは完結しません。国際的な動向も視野にいれつつ地域にでかけ、臨床医はもちろん行政、学校、企業、学会等の関係者とコミュニケーションをとりながら、ひとつひとつ課題解決のための取り組みを進めていきます。衛生学の専門性は、特定の手術や病院等での検査に秀でている、といったタイプの専門性とは異なり、広い守備範囲をカバーしながら社会の健康課題解決のために最適な研究手技を導入し、前に進んでいくところにあります。社会、集団、ヒトという個体、臓器、細胞、生体分子それぞれを、環境影響という視点から連続的に理解する視野を身につけることは、知的好奇心が十分に刺激されるやりがいに満ちています。こういう研究の世界に一定期間身を置く人の多くは、バランスのとれた感覚とともに、オーケストラの指揮者のように全体を見渡して問題を解決する力を身につけていきます。

(7-3) エピローグ -お礼のご挨拶-

ここまでお読み下さいまして、ありがとうございました。私たちの研究はまだまだこれからです。究極的には、化学物質のリスクが完全に管理された、そ

して持続性のある社会にしていくことが、私たちの願いです。衛生学の成果は社会の各所で活かされています。私たちが衛生学という学問とともに前に進んでいくのを、どうかお見守りいただきますよう、お願いいたします。

本稿でご紹介した研究内容は、名市大衛生学教室で行っている研究の一部です。化学物質という切り口だけでなく、人間工学を切り口とする研究も守備範囲です。本稿をきっかけに、衛生学の研究に少しでも親しみをもっていただければ幸いです。また、私たちとディスカッションしながら研究を志す「心と頭の若い」方が飛び込んできて下さるのを、お待ちしております。